



Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース No.2
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1969, 2, p. 4-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65112
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

① センターだより

1. ACCOUNTING の変更について

昭和44年4月1日から新らしい ACCOUNTING ルーチンの使用を開始しますので、次の事項にご留意下さい。

1) ACCOUNT 情報の計算結果出力内容の変更について

従来コンパイル、リンクコード等各Run間で出力していた、ACCOUNT 情報は省略し、JOB 全体についての ACCOUNT 情報のみを出力します。なお JOB 間の ACCOUNT 情報中に“INPUT CARDS”, “MEMORY BANKS”, “END STATUS” 等の項が追加されました。

① INPUT CARDS について

利用者のソース・デックの総枚数（ステートメント・カード枚数+データ・カード枚数）に、センター側でジェネレートするモニター・コントロール・カード（MON \$\$ カード、PHASE カード、CALL カード等）を加えた数が出力印字されます。

② MEMORY BANKS について

従来各 Run間で出力していたメモリ・ババンク数は常に使用可能最大ババンク数（1BANK=4K 字）を印字していましたが、今後これを利用者の JOB が実際に使用しているメモリー・サイズ（プログラム領域+コモン領域）を示すように変更しました。

③ END STATUS について

この情報は利用者の JOB の終了状態を示すものであり、プログラムが平常に終了すれば、EOP (End of Program) と印字されますが、それ以外の場合は UEP メッセージ（17頁参照）が出ます。

例えば SHEETS 枚数で計算を強制的に打切られた場合には UEP E と出力されます。

参 照

新アカウント情報 (JOB 間)		旧アカウント情報 (JOB 間)	
*** JOB ACCOUNTING ***			
DATE	69/03/15	DATE	69074
JOB NAME	6092BT0012	JOB NAME	6092BT0012
BEGIN TIME	13:14'23"	BEGIN	13:14'23"
END TIME	13:16'36"	END	13:16'36"
USE TIME	002'13"	TIME	00:02'13"
CPU TIME	000'41"	CPU TIME	00:00'41"
SHEETS PRINTED	00019	SHEETS PRINTED	00015
CARDS PUNCHED	00000	CARDS PUNCHED	00000
INPUT CARDS	00470		
MEMORY BANKS	0034		
END STATUS	EOP		

2. JOB CARD の様式の変更について

センター紹介の項で説明いたしましたとおり、現在本学センターでは 2JOB の同時並行処理を行なっていますが、このため JOB CARD の様式を次のように変更いたしました。

新 JOB CARD

1	6	16	21	30	32	39	41	54	61
MON\$	JOB, U	XXXXXX		69/02/06		LIMIT ttt, PPPPP		* XXXXXX *	
又は 空欄		課題番号		受付年月日		打切時間(分), 頁数(頁)		受付番号	

旧 JOB CARD

1	6	16	19	28	31	38	41	54	61
MON\$	JOB	XXXXXX		69/02/06		LIMIT ttt, PPPPP		* XXXXXX *	
		課題番号		受付年月日		打切時間(分), 頁数(頁)		受付番号	

注：(, U) は UPPER の GRAND 指定であり LOWER の場合は空欄とする。

3. 集団複写穿孔機の利用について

このたび本学センターに設置した集団複写穿孔機の利用については、当分のあいだ次の方法により行ないます。

- 1) 集団複写穿孔機の操作は、センター側で行ないます。
- 2) 複写穿孔を希望する場合は、複写するカード・デックにセンター所定の「せん孔依頼書」（後掲参照）を添え、センターに提出して下さい。（ランク・カードを添える必要はありません。）
- 3) 提出の際のカード・デックは紛失しないよう必ずダンボール箱に入れて下さい。
- 4) 集団複写穿孔機には印字機能がありません。また会計機（リストティング・マシン）が設置されていませんからお含みおき下さい。
- 5) カード穿孔サービスは現在行なっていません。
- 6) その他「せん孔依頼書」の注意事項欄を参考にして下さい。

様式 7

カードせん孔依頼書

大

(依頼者記入)

課題番号								氏名	
連絡先	(名 称) (所在 地)								
	TEL (市外局番) (局番) (番号) (内線番号)								
作業種別	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 修正 <input type="checkbox"/> 複製 (デック添付) <input type="checkbox"/> その他 ()								
枚 数	コーディング・シート <input type="text"/> 枚 又はカード <input type="text"/> 枚								
返却場所	<input type="checkbox"/> センターとめおき <input type="checkbox"/> 連絡所おくり								
センターへの注意事項									
注 1. プログラム、データは所定の FORTRAN CODING FORM 用紙に1行間隔で書いたものに限ります。 2. 判断に困るような文字を使用されている場合は、受付しかねますのでご留意下さい。 3. 原則として検孔はセンターで行ないませんから各自必ず点検して下さい。 4. センターの集団複写穿孔機 (IBM-519型) は印字機能がありませんからご留意下さい。 5. 連絡所を経由しないで直接センターに依頼する場合はセンター受付窓口に提出下さい。 6. その他センター業務の都合により種々制限することがありますから、あらかじめご了承下さい。									

(連絡所記入)

受付年月日		受付番号		受付者	
受付連絡所	(名 称)			備 考	
発送年月日		発送者			

(センター記入)

受付年月日		受付番号		受付者	
処理年月日		処理担当者		確認者	
返却年月日		使 用 カ ード枚 数		返 却 者	
センターから の連絡事項					

大阪大学大型計算機センター

注 1. (大) (連) (利) の3枚複写になっています。

注 2. 依頼書の用紙の必要なときは、センター、各地区協議会または各連絡所に申出て下さい。

4. データ・ステーションの利用申込方法について

データ・ステーション（中之島地区および吹田地区）の端末装置を自分で操作してセンターの計算機の利用を希望する場合は、当分のあいだ次の方法によって利用できます。

1) 申込方法

まず、所定のデータ・ステーション利用申込書（後掲）に必要事項記載のうえ、利用の都度センターの許可を得て下さい。

2) 利用の条件

- ① メモリー・サイズ 65K字（8K語相当）以内に限ります。
- ② 使 用 言 語 当分のあいだ FORTRAN 相当に限ります。
- ③ 利 用 時 間 1回につき約30分間（平日（月曜日を除く）午前9時30分～午後0時30分）
- ④ 資 格 TSS用コマンドを理解している方に限ります。（原則として操作の指導は特に行いません。）

3) 使用に要する経費

センター・バッチ処理の場合に準じます。（CPU タイム 1分につき50円）

4) そ の 他

詳細については、センター（豊中（068）56-1151 内線 2101 または 2105）にお問合せ下さい。

様式 4

データ・ステーション利用申込書

(大)

大阪大学大型計算機センター長

昭和 年 月 日

殿

注 この申込書は、自分でデータ・ステーションの
端末装置を操作して、利用する場合のものです。

貴センターのデータ・ステーションの利用を下記のとおり申込みます。

(申込者記入)

課題番号					氏名		
連絡先	TEL (市外番号) (局番) (番号) (内線番号)						
利用希望 データ・ステーション	<input type="checkbox"/> 中之島データ・ステーション <input type="checkbox"/> 吹田データ・ステーション <input type="checkbox"/> ()						
利用希望年月日 及び時間	昭和 年 月 日 時 分 から 時 分 まで 計 分 間						
利用希望 入出力装置	入力装置			出力装置			
	<input type="checkbox"/> タイプライター	(KBI)	<input type="checkbox"/> タイプライター	(KBO)			
	<input type="checkbox"/> 附属紙テープ・リーダー	(TR1)	<input type="checkbox"/> 附属紙テープ・パンチ	(TP1)			
	<input type="checkbox"/> 高速紙テープ・リーダー	(TR2)	<input type="checkbox"/> 高速紙テープ・パンチ	(TP2)			
	<input type="checkbox"/> カードリーダー	(CDR)	<input type="checkbox"/> カード・パンチ	(CDP)			
<input type="checkbox"/> ライン・プリンター	(LNP)	<input type="checkbox"/> センター・ラインプリンター	(CLNP)				
LOAD,SAVEコマンド の使用希望の有無	<input type="checkbox"/> LOADコマンド使用希望 <input type="checkbox"/> SAVEコマンド使用希望 <input type="checkbox"/> 希望なし						
備考							

上記の利用申込を下記のとおり許可します。

昭和 年 月 日

大阪大学大型計算機センター長

(印)

受付年月日	受付番号	受付者	確認者
利用許可 データ・ステーション	<input type="checkbox"/> 中之島データ・ステーション <input type="checkbox"/> 吹田データ・ステーション <input type="checkbox"/> ()		
利用年月日 及び時間	昭和 年 月 日 時 分 から 時 分 まで 計 分 間		
備考			

大阪大学大型計算機センター

注 1. (大) (印) の2枚複写になっています。

注 2. 申込書用紙の必要なときは、センター、各地区協議会、または各連絡所に申出て下さい。

5. 大型計算機センター利用報告書の提出について

「大阪大学大型計算機センターの利用に関する暫定措置を定める規程」の第9条で計算機利用者は当該研究課題にかかる研究につきセンターを利用した結果または経過を所定の利用報告書（後掲）により報告していただくことになっています。まだ提出されていない方は至急にセンターにご提出下さい。

なお44年度も引き続き計算機の利用を希望する場合は、必ず事前に報告書をご提出下さい。

(ヤンター記入)

受付年月日	記 事		
センター長	掛 長	受 付 者	

注1. 太線内は利用者自身で記入して下さい。

注2. 関係論文の別刷等がある場合は、この報告書に添附して下さい。

注 1. 報告書の用紙はセンター、各地区協議会または各連絡所にあります。

6. 意見票（利用者の声）および質問票について

利用者の方々でセンターへの要望、意見、相談または質問（プログラムの質問を除きます）がある場合には、次の意見票によりセンターにお寄せ下さい。

なお、質問票は計算結果に対する質問またはプログラム相談のためにご利用下さい。

様式 5		受付番号	受年月付日	受付者	(大)
提出年月日 昭和 年 月 日					
質問票					
課題番号 氏名
連絡先	(名称) TEL (市外局番) (局番) (番号) (内線番号)				
質問：※必要十分なプログラム・リスト、デック、計算結果などを添えて提出して下さい。					
回答年月日	回答者			確認者	
回答：					

様式 6

受付番号		受年月付日		受付者
------	--	-------	--	-----

(大)

提出年月日 昭和 年 月 日

意 見 票 (利用者の声)

課題番号								氏名
------	--	--	--	--	--	--	--	----

連絡先	(名称)	TEL (市外局番)	(局番)	(番号)	(内線番号)
-----	------	------------	------	------	--------

意見 :

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

回答年月日		回答者		確認者	
-------	--	-----	--	-----	--

回答 :

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

大阪大学大型計算機センター

注 1. (大) (判) の 2枚複写になっています。

注 2. 用紙の必要なときはセンター、地区協議会、または連絡所に申出て下さい。

7. マニュアルの入手方法について

各種マニュアルの入手を希望する場合には、次のマニュアル購入申込書により直接日本電気株式会社にお申込み下さい。（ただし、日本電気株式会社からできるだけ各連絡所単位にまとめて申込みをしてほしいと要望しています。）

大阪市東区北浜 5-22 日本電気株式会社
データ処理システム事業部大阪営業部行
TEL 06-203-1171

※印記入不要
※受付 昭和 年 月 日
※受付No.

大阪共同利用計算機センター用マニュアル購入申込書

申込 昭和 年 月 日

	マニアル名	単価	部数	金額	※送附年月日
1	NEAC-シリーズ2200プログラミングシステムモデル500 システム説明書	1,200			
2	〃 オペレティングシステム MOD III PHASE 0 入門書	140			
3	〃〃 操作法説明書	500			
4	〃〃 ASSEMBLER K 説明書	1,000			
5	〃〃 IOFCS K 説明書	780			
6	〃〃 MONITOR K 説明書	750			
7	〃〃 LINKAGE LOADER K 説明書	350			
8	〃〃 SYSTEM MAINTENANCE K 説明書	560			
9	〃〃 FORTRAN Compiler K 説明書	560			
10	〃〃 FORTRAN K (ASSEMBLER との LINK)	330			
11	〃 オペレーティング FORTRAN Compiler H システム MOD I (FORTRAN 説明書)	950			
12	〃 プログラミング 科学計算用 FORTRAN システム ライブライ一仕様書	550			
13	〃 タイムシェアリング NEAC-TSS(PHASE 0) グシステム コマンド説明書	900			
14					
15					
	合 計				

〔申込者所属機関名〕 _____

印

〔同役(官)職名及氏名〕 _____

〔マニュアル送附先住所〕 _____

〔支払者(何れかに○印)〕 勤務先(所属機関・役職・氏名) _____

本人

〔支払方法(何れかに○印)〕 現金(年月日) 為替(年月日)

銀行振込(年月日 銀行 支店)

〔書類(必要なものに○印及び部数)〕 見積書 通 勘定書 通 納品書 通 領収書

御願い 1) 指定の見積書・請求書・納品書・領収書の必要な場合は本申込書に同封願います。

2) 銀行振込の場合は出来る限り住友銀行本店 日本電気株式会社 大阪支社当座預金口座を御指定願います。その他の銀行は住友信託銀行(本店)・三菱・協和・横浜・紀陽(各大阪支店)を御利用願います。

8. 昭和44年度大型計算機センター利用申請書提出の方法について

- ① 昭和44年2月18日から昭和44年度の利用申請の受付を行なっています。用紙は各地区協議会にありますから連絡所を通して請求してください。
(昭和44年度からは一部申請書の様式の変更がありますから注意してください。)
- ② 官職または身分欄の記入については昭和44年4月1日現在であらかじめ予定される官職または身分を記入してください。
- ③ 昭和43年度において○○○○B○○○○○の課題番号で利用し、昭和44年度も引き続き同じ課題で利用される場合は、新しく提出される大型計算機センター利用申請書の共用備考欄に(○○○○B○○○○○継続)と記入してください。
- ④ その他
 - 1) ④は、各申請書(4枚複写で(大)(地)(連)(利)の別になっております)に押印してください。
 - 2) 申請書裏面の“利用に関する暫定措置を定める規程”にご留意ください。

9. 昭和43年度プログラム指導員講習会について

さる昭和43年10月22日～25日に大阪大学大型計算機センター会議室(豊中市待兼山町1番1号)で第1回講習会を開催して以来5回にわたり講習会を開催しました。

講習会日程および参加者は次のとおりです。

講習会日程

		9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	15:15	16:30
第1日	火	開講の あいさ つ	センター組織 および利用の 原則について	休 憩	計算機シ ステムに ついて	センタ ー見 学	休 憩	センタ ー利 用の手続 等 について			
第2日	水	FORTRAN Kについて		休 憩	FORTRAN Kについて		FORTRAN 演習				
第3日	木	システム・プログ ラムについて	タイムシェ アリング・ システムに ついて	休 憩	タイムシェア リング・シス テムのコマン ドについて		FORTRAN 演習				
第4日	金	タイムシェアリング・シス テムの実習		休 憩	タイムシェア リング・シス テムの実習	懇 談 会		閉講の あ いさ つ			

第1回プログラム指導員講習会参加者

43.10.22～25 (4日間)

地区協別	所 属 機 関	身 分	氏 名
第6地区協	大阪府立大学工学部 大阪市立大学計算センター 大阪医科大学衛生学教室 関西大学工学部 奈良工業高等専門学校 神戸商科大学 関西学院大学理学部 香川大学計算センター 阿南工業高等専門学校	助 手 官 手 助 手 講 師 助 教 助 手 技 官 助 教	石 堀 山 竹 阪 沢 中 山 内 上 村 山 瀬 島 川 井 本 竹 阪 沢 中 山 内 上 村 山 瀬 島 治 博 和 健 幸 正 敏 文 新 男 行 子 吾 信 樹 子 男

第2回プログラム指導員講習会参加者

43.11.12~15 (4日間)

地区協別	所 属 機 関	身 分	氏 名			
第1地区協	北海道大学計算センター	技官	千葉	正敏	吾夫	介
	北海道大学計算センター	技官	江	丸	敏	
	小樽商科大学	助教	穂	鷹	良	
第2地区協	東北大電気通信研究所	助教	高	橋	理	俊
	東北大電気通信研究所	助手	宮	崎	正	
第3地区協	東京大学大型計算機センター	助手	山	本	敦	子
	東京大学大型計算機センター	技官	池	田	親	民
	東京大学工学部計数工学科	助手	高	沢	嘉	光
	東京大学生産技術研究所	大学院学生	西	尾	治	一
	成蹊大学工学部	助手	小	岩	穎	夫
第4地区協	名古屋大学工学部総合計算室	助手	鹿	野	洋	治
	名古屋大学工学部	助教	小	国	忠	弘
	豊田工業高等専門学校	助教	伊	藤	二	郎
第5地区協	富山大学計算センター	技官	岡	田	勝	二
	金沢大学理学部電子計算機室	技官	車	古	正	樹
第6地区協	神戸商船大学	助教	的	場	進	
第7地区協	山口大学工学部	教 授	佐	々木	次	郎

第3回プログラム指導員講習会参加者

43.12.17~20 (4日間)

地区協別	所 属 機 関	身 分	氏 名			
第1地区協	北海道大学工学部	助手	岡	間	輝	雄
	北海道大学計算センター	技術員	相	良	村	勲
	帯広畜産大学	助教	西			行
第2地区協	東北大理学部	助手	島	貫	治	陸
	東北大理学部	助教	鍛	田	東	海
	東北学院大学工学部	助教	内			一
第3地区協	東京大学工学部	大学院学生	山	田	正	寛
	電気通信大学	技官	齊	藤	梅	朗
	神奈川大学	助手	鍛	島	静	子
	順天堂大学	助手	坂	田	清	子
第4地区協	名古屋大学工学部	助 手	泰	野	和	郎
第5地区協	京都工芸繊維大学	助教 授	弓	場	芳	治
	京都工芸繊維大学	大学院学生	山	田	国	広
	金沢大学工学部	教 授	武			幹
第6地区協	神戸市立工業高等専門学校	助教 授	橋	本	礼	治
	神戸商科大学	講師	西	川	仙	之
	大阪府立工業高等専門学校	講師	久	保	建	二
	岡山大学理学部	講師	米	井	克	己
第7地区協	広島大学理学部	助 手	濡	木	暢	子
	広島大学工学部		平	木	秀	作
	九州大学大型計算機センター		津	田	和	枝

第4回プログラム指導員講習会参加者

44.2.18~21 (4日間)

地区協別	所 属 機 閣	身 分	氏 名			
第1地区協	北海道大学計算センター	技術員	村	守	秀	雄
第2地区協	岩手大学工学部電子工学科 東北大学計算センター 東北大学計算センター	講 師 助 手 助 手	照 小 金	井 川 田	武 靖 雄	彥 彦 次
第5地区協	金沢大学工学部 金沢大学	助 手 講 師	尾 小	田 島	十 一	八 彦
第6地区協	大阪府立大学工学部	講 師	西	村	ミ チ	コ
第7地区協	熊本大学工学部 広島大学工学部	技 官 助 手	林 岩	田 谷	正 和	信 夫

第5回プログラム指導員講習会参加者

44.3.11~14 (4日間)

地区協別	所 属 機 閣	身 分	氏 名			
第1地区協	小樽商科大学 小樽商科大学 小樽商科大学	助 教 授 助 教 授 技 官	藤 清 三	田 川 島	芳 緋 紗	夫 子
第2地区協	秋田大学鉱山学部 東北大学理学部 東北大学計算センター	助 教 授 助 教 授 技 官	遊 大 武	佐 西 田	美 外 敏	津 史 夫
第3地区協	統計数理研究所 沼津工業高等専門学校 東京農工大学工学部 東京農工大学工学部 東京大学工学部	技 官 講 師 助 手 技 官 大学院学生	高 影 音 渡	橋 山 田 辺 取	耕 紗 渡	貴 学 稔 好
第5地区協	金沢大学工学部 金沢大学教育学部 金沢大学工学部	教 授 講 師 助 教 授	長 小 沢	田 鳴 田	小 田	秀 達 郎
第6地区協	神戸大学教養部 阿南工業高等専門学校 奈良工業高等専門学校	助 手 助 手 講 師	小 三 田	松 谷 中	恭 英 富	子 機 士
第7地区協	九州工業大学 広島大学理学部	助 手 大学院学生	平 寺	田 本	東 武	助 昭